

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

VIVAcity

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報102

VOL.
16

2017
April

特集

講演会

研修会

施術者としての心、
スキルに磨きをかける

能登島大橋

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民俗医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。

ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

VIVA city

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報102

VOL.
16

2017
April

C O N T E N T S

1 巻頭言

誇りと自信をもって前へ 嶋谷 清

2 [特集] 講演会／研修会

一般公開講演会

会員学術研究発表

各支部研修会

7 サポート接骨石川 (SSI) 活動報告

能登和倉万葉の里マラソン2017

9 支部だより

金沢南支部／加賀支部／能登支部／金沢北支部＆南支部

12 トピックス

12 新入会員紹介

巻頭言

かんとうげん

石川県柔道整復師会の活動を振り返って—— 誇りと自信をもって前へ

会員の皆様方には、平素より公益社団法人石川県柔道整復師会の事業活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

光陰矢の如し、平成19年3月に発生した能登半島地震から早10年となり、今は被災地も平穏な日常を取り戻しています。当時は会員の皆さんに救護活動等で大変なご協力を頂きましたが、その時の経験から組織的な救護活動の必要性を痛感し、本会会員による日赤奉仕団を結成し災害時の緊急連絡網も立ち上げました。平成23年3月発生の東日本大震災ではそれらの取り組みをもとに、宮城県東松島市で迅速な救護活動を展開することが出来ました。

石川県は比較的自然災害が少なく、住みやすい所と言われますが、それは霊峰白山のおかげだと言われる方も多いようです。去年は会員有志の皆さんが、開山千三百年を迎える白山に感謝の清掃登山を行いました。白山は登山者のマナーが浸透していて綺麗だったとの報告を頂き喜ばしく感じております。

評価に左右されることなく自然体で

さて我が業界を見ますと、国の医療費抑制策のため保険者（健康保険組合を含む）が、外部調査事務所へ委託をして患者受診調査を行っているところがあります。調査自体に異論はありませんが、ややもすると受診抑制や柔道整復師への偏見を感じさせる調査内容も一部あるようで、我々も誤解を生じさせない誠実な対応を心がけなければなりません。平成29年度より柔道整復療養費の公的審査会の権限が強化されますが、今さら言うまでもなく、常日頃より患者



■嶋谷 清

(しまや きよし)
(公社)石川県柔道整復師会 会長

【プロフィール】

平成9年より6期12年間にわたり理事を務め、加賀支部長・学術部長・総務部長を歴任する。平成21年に副会長、平成27年に会長に就任。

様に十分な問診を行って負傷部位を確定し、病態の説明をしていれば何ら問題は発生しないはずです。自然体での対応をお願いします。

また介護保険の包括ケアシステムへの参画についても、行政、医師会との話し合いを進めていかなければなりません。これについても会員皆様のご理解と継続的な勉強会が必要となろうかと思えます。今後、各支部で開催していく保険取扱い講習会とあわせて、積極的な参加をお願いします。

なお、今年度の卒後臨床研修会は石川県での開催となります。未受講の勤務柔整師をご存知でしたら、受講を勧めて頂ければ幸いです。

県内各地のスポーツ大会での救護・ケア、金沢百万石まつりの救護、一般公開講座など、本会が積極的な公益事業活動に取り組みを続けていることは、多くの方々より高い評価を頂いております。今後さらなる活動の充実を図りながら発展させていきたいと思っています。

今後も、会員皆様方それぞれの立場からのご意見ご提案を本会の事業活動に反映していきたいと思っておりますので、これまで以上のご協力をよろしくお願い申し上げます。

seminar& lecture meeting

学び▶活かし▶情報を発信

〔特集〕

講演会／研修会

ハツラツと元気な毎日を支えるため— 施術者としての心、 スキルに磨きをかける

(公社)石川県柔道整復師会では、さまざまな講演会や研究会を通して
会員一人ひとりが施術技術の向上に努めるとともに、地域の皆様の健康
に役立つ情報の発信に努めています。

一般公開講演会

開催日■平成29年2月19日(日)

会 場■能美市ふるさと交流センター さらい

スポーツ現場における 物理療法活用の実際

トップ選手・競技団体の コンディショニング活用事例より

講師／伊藤超短波株式会社 メディカル事業部

スポーツ事業推進事務局 荒井 慧(さとし)氏



平成29年2月19日(日)午前9時30分
より、(公社)石川県柔道整復師会主催・
石川県柔道整復師協同組合共催で、講演
会が開催されました。この講演会は一般
にも公開され、会場には地域や学校スポ
ーツの現場等で指導されている方々の姿
も見受けられました。

荒井慧氏は2005年、物理療法機器のパイオニアである伊藤超短波株式会社に入社。2013年に、アスリートの治療やコンディショニングに長年取り組んできたスポーツプロジェクト事務局へと異動し、2016年のリオ五輪では現地サポートリーダーとして活動されました。またご自身も陸上競技の経験者であり実業団で活躍された実績をお持ちです。

第1部では、リオ五輪でのサポート活動の概要を説明されました。リオデジャネイロに向かう前にサポートテーマを決定し ①事前研修(動機付け) ②トレーナーへの最新資料提供(アウトプット) ③自社セミナー(フィードバック)を行い、公認団体を含む21団体をサポートし

リオ五輪でのアスリートへのサポート活動という
興味深い話題から講演はスタートした。



実際の機器を使用しながらコンディショニングへの応用方法について解説。



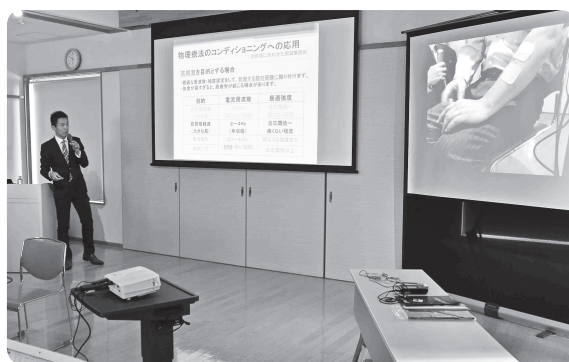
ました。また、リオ市内のリゾートクラブを貸し切ってJ I S S (国立スポーツ科学センター) のリハビリ機能を移設した「ハイパフォーマンス・サポートセンター」に協力し、オリンピック、パラリンピックを通して選手たちの活躍をバックアップしたことを説明されました。

続く第2部は物理療法のコンディショニングへの応用について、医療機器を使用しながら「神経刺激」と「組織修復」、それぞれの目的に沿って説明。パフォーマンス向上要素として物理

療法機器で筋出力・スタビリティ・可動域を改善するアプローチを提案し、最後に物理療法を用いたアスリートへの最新の活用事例を紹介されました。

約90分の講習会でしたが、参加された60名の皆さんは熱心に聞き入っていました。また、終了後は会場内外で活発な意見交換が行われていました。

症状や使用目的に適した設定など、詳細に説明された。



会員学術研究発表

開催日 ■ 平成29年2月19日(日)

会 場 ■ 能美市ふるさと交流センター さらい

日々の施術をととして得た知識や情報を全ての会員が共有し、互いを高め合うことを目的に開催しています。今年は2題の発表があり、県内各支部より多数の会員が参加しました(発表抄録より一部抜粋)。



右仙腸関節捻挫 起因・所見・対応

加賀支部 高熊 二夫会員

仙腸関節において、この部位に認められた特異な所見を報告し、5つの症例から起因と外力の働き方を考察。『仙腸関節捻挫』というべき症例について報告しました。特異な所見としてワンフィンガーテスト、仙

腸関節部の異常、片足立ちテスト、S L Rテストをあげ、適切な対応※により比較的短期の施療で軽快治癒に導くことが可能であるとまとめました。

※適切な対応…①側臥位 ②手技による調整
③窓枠体操による姿勢改善 ④装具による固定



超音波観察から見た筋挫傷の実体 ～生体内アクトミオシン形成の可能性～

金沢南支部
岡本 透会員

我々柔道整復師の業務範囲は骨折、脱臼、打撲、捻挫、挫傷です。骨折、脱臼、捻挫に関しては、正しい処置をせずに放置すると長い疼痛に見舞われることがあることは周知されつつありますが、打撲及び挫傷に関しては放置されがちです。筋肉の張りや軽い内出血と自己判断し、経験的な治癒起点の早さによって病態を軽視して早期治療を行わなかったため、治癒経過が遷延してしまう例が多く見られます。

そこで打撲及び挫傷の施術の際、超音波観

察装置から得られた硬化像が生体内におけるアクトミオシン複合体であるとの仮説を立て検証しました。その後、3つの症例について考察と解説を交えながら報告を行いました。

※11月開催の金沢南支部学術講習会でも、同発表が行われました（9ページに掲載）。



発表者の2人に表彰状が贈られた（左端は中田学術部、右端は二ツ谷副会長）。

各支部研修会

県内の四支部においても、それぞれ独自の研修会・講演会を実施しています。

能登支部

一般公開講座

■平成28年10月30日(日)
■羽咋市 休暇村能登千里浜

自分の体をよく知ろう！ 腎臓って何しているの？ ～腎臓の働きと透析治療の世界～

講師／みずほ病院 腎臓・透析専門医
黒川 幸枝先生

一般公開講座は、患者さんなど広く一般の方々にも学んで頂く目的で(公社)石川県柔道整復師会が主催しており、今回は一般からの15名を含む43名が参加しました。

日本における慢性腎臓病による透析患者数は年々増加しています。今回の講演では、腎臓・



会場には一般の方々の姿も多く見られ、透析治療への関心の高さがうかがえた。



透析専門医の黒川先生が、腎臓の働き、腎臓が弱ったら体はどうなるか、腎不全の透析治療についてなどわかりやすく解説しました。また血圧管理や塩分制限、適切な運動量や適度な飲水量など、普段の生活で腎臓に負担を掛けないための具体的な注意点についても丁寧に説明して

頂きました。

黒川先生から患者さんへの熱意と愛情が感じられただけでなく、先生の「病気、症状を不可抗力だとあきらめずに、その患者さん一人ひとりの人生に医療の側面からサポートするのが医療従事者の役割である」という言葉は、同じ医療従事者である会員に大きな刺激となり、一般の方々にも会員にとっても意義のある講演会になりました。



患者さんへの熱意が感じられる講演に大きな刺激を受けた。

加賀支部

一般公開講座

■平成28年12月4日(日)

■加賀市セミナーハウス あいりす

エコーはどこまでつかえるか

講師／医療法人社団
もりした整形外科
クリニック 院長

森下 肇先生



初めに森下先生は画像診断について、X線撮影、CT-scan、MRIそれぞれの利点・欠点を挙げて説明し、今後導入が多くなってくるEcho（以下、エコー・超音波画像診断装置）について詳しく話されました。エコーは1950年代より研究がされ、1989年に日本整形外科超音波研究会、2013年に日本整形外科超音波

プローブを当てるとすぐに見られることもエコーの優れた点の一つ。



慣れると患部の状態を正確に把握できるようになる。

学会が発足し、保険適応や安価に導入ができるようになりました。エコーでは、XP(X線撮影)では見えない骨表面のヒビや軟部腫瘍の質的診断が可能です。また、野球肘、筋損傷、肩疾患、石灰沈着等の診断にも活用でき、穿刺や注射もエコーを見ながら安全・確実に実行できるようになったと説明されました。

続いて画像を観ながら骨折や捻挫、筋挫傷、筋断裂、腫瘍について詳しく解説し、特に野球肘に関しては早期発見・早期治療が可能になり、とても良い結果が出ていると話されました。

エコーの応用として、関節内、SAB(肩峰下滑液包)、神経ブロックなどへの注射、穿刺ではガングリオン、滑液包、肩石灰乱刺吸引について説明し、その他、手根管症候群、deQuervain腱鞘炎術前チェック、下肢静脈血栓症、大腿骨内顆骨壊死にも有効であること、単に診断だけでなく治療のうえでも必須アイテムになっていることを説明されました。

一般からの参加5名を含む40名が熱心に聴講し、講演後はたくさんの質問が飛び交う有意義な講演会となりました。



興味深い内容に、会場から質問が相次いで出された。

金沢北
&
南支部

学術研修会

■平成29年1月22日(日)

■ホテル金沢

前十字靭帯損傷との戦い ～予防から治療そして パフォーマンスアップまで～

講師／木島病院勤務 柔道整復師
北國銀行ハンドボール部トレーナー
木村 慎之介先生



講師の木村先生は、ACL断裂を起こした選手たちが再び活躍できるよう試行錯誤を重ねている。

北國銀行ハンドボール部女子選手17名のうち、前十字靭帯（以下ACL）を断裂した選手が7名います。ACL損傷についていろいろな研究がされています

が、予防法に関して成果のある報告はまだありません。私達も2012年から予防プログラムを組んでトレーニングを行っていますが、成果が出ていないのが現状です。

ACL断裂は非接触で起こることが多く、損傷機転として「膝内反+外旋」で起こるのではとされていましたが、今は「膝外反+内旋+圧迫」で断裂を起こし易く、足を着地して0.04秒後に断裂することが分かっています。また踵の後内側部で接地すると外反内旋の外力加わりやすく断裂しやすいようです。合併症として脛骨外側部での剥離骨折がよくみられます。

【診断のポイント】

- 受傷機転を聞き逃さない
- 受傷直後、血腫がないことが多い
- 受傷1週間は理学所見が取れない
- MRI検査が有用

術後は膝蓋上包部分の癒着により膝関節屈曲制限を、膝蓋下脂肪体部分の癒着によって伸展

制限を起こすため、そこを考慮してリハビリを行います。改善がみられない場合は内視鏡による授動術を行います。リハビリは6か月を目安に取り組み、その後は独自に復帰基準を設けて競技に復帰させています。

【ACLリハビリの流れ】

- 術直後から…伸展位の獲得・セッティング・炎症管理の徹底
- 1週間から…全荷重歩行訓練
- 4週間から…CKCエクササイズ、バイク
- 2～3か月…完全伸展獲得、ジョグ開始
- 3か月から…ダッシュ、サイドステップ
- 4か月から…アジリティ、ジャンプ
- 5か月から…対人練習開始
- 6か月から…競技復帰

【リハビリ後の競技復帰基準】

- FMS※(Functional Movement Systems)で17点以上
- SEBT(Star Excursion Balance Test)で左右差がないこと
- One leg hopで左右差がないこと

※FMS…米国の理学療法士グレイ・クック氏が考案。基本的動作を通じて身体の運動性や動きを評価するテスト法。

ACL損傷予防のため、特に大殿筋の統合的トレーニング(股関節屈曲内旋運動)を重点的にを行い、膝の外反内旋動作が起らないようにしています。

【予防のための統合的トレーニングの原則】

- 短縮性収縮、伸長筋収縮、等尺筋収縮トレーニング
- 矢状面、前額面、水平面トレーニング
- 複数の方法を用いたトレーニング(ダンベル、バーベル、ボール等)
- 各要素を網羅したトレーニング(コア、バランス、ストレングス等)





Support Sekkotsu
Ishikawa
SSI
サポート接骨
石川

サポート接骨石川(SSi)活動

能登和倉万葉の里マラソン2017

平成29年3月12日(日)、七尾市で「能登和倉万葉の里マラソン2017」が開催されました。主催者からの要請を受け、能登支部を中心とした43名の本会会員が「サポート接骨石川・赤十字奉仕団」としてボランティア活動を行うために集合し、さらに北信越柔整専門学校講師8名がグリーンのポロシャツでケアサポートに加わりました。

■ 口コミの影響？ スタート前から行列が

現在、全国各地でフルマラソンの大会が開催されていますが、「能登和倉万葉の里マラソン」は「スタート前からケアを受けられる大会」として口コミやSNSで知られているそうです。そのせいか、サポートブースが設営された和倉観光会館2階ホールには、スタートの3時間以上前の6時50分にはランナーが並び、ただちにテーピング、ストレッチなどのコンディショニングを開始しました。今年はベッドの数を昨年までより4台増やして17台とし、室内に入りきらない場合に



6605人のランナーが参加、能登の豊かな自然の中を駆け抜けた。



沿道からの「いいね！」

備えて廊下に応急ブースを作り、より多くのランナーのケアが出来るようにしました。

最近ではテーピングを希望するランナーも多くなっています。これまで自己流で巻いていた選手から「やっぱり違う！足に負担がからなくなつて楽に走れた」と大変喜ばれました。わざわざお礼を言いに来るランナーが何人もおられ、準備研修会で勉強したテーピングの成果を感じました。

■ テントから、救護室からもSOS！

午後からは風が冷たくなり急速にランナーの体温を奪ったため、救護テントから「動けなくなつ



アイシング用の氷も準備OK！

口コミ効果がスタート前からこの賑わい。



選手の要望も多様化している。



事前研修会で学んだテーピング法が喜ばれた。

サポート接骨石川 (SSI) 活動報告

た選手がいるから来てほしい」との要請。ゴール横のテントに6人で駆けつけテント内でケアを行っている、今度は救護室から「こっちでも1人動けなくなった」と連絡があり、すぐに二手に分かれて救護室へ向かうなど、サポートブースだけでなく会場のあちこちへと出向いて選手のケアにあたりました。

今年は564名のランナーにコンディショニングとケアを行いました。受付を終了しケアブースをもとの会議室に戻した後、山田俊志支部長が「皆さんのおかげで無事にケアサポート活動ができました。選手だけでなく関係者の皆さんからたくさんの感謝の言葉をいただいております。ありがとうございます」と労をねぎらい、続いて堂本義邦副会長が「能登地震から4年目の3月11日に東日本大震災が発生し、その直後にこの大会が開催されました。あれから6年が過ぎましたが未だに行方不明の方も多くおられます。震災で犠牲になられた方々のために黙とうをささげたいと思います」と呼び掛け、全員で犠牲者への黙とうと復興への祈りをささげ、早朝からの活動を終了しました。



テントの中で動けなくなった選手を救護。

走り終えた選手たちと和やかに会話を交わしながら。

ケアを受けた選手からの ありがとう

10キロ完走 53歳・女性(七尾市在住)

最近、若い時に痛めた膝が走ると痛くなって…。今日も完走できるか心配でしたが、テーピングをしてもらったおかげで痛みもひどくならず、完走出来ました。助かりました。

10キロ完走 29歳・女性(金沢市在住)

今日は10キロですが、来月と来月の大会でハーフを走って、最終的には金沢マラソンで完走したい。すごくよくみてもらったので金沢マラソンでもスタート前にやってほしいくらいです。

10キロ完走 58歳・女性(富山市在住)

テーピングをもらったので楽に走れました。一年一年無理がきかなくなるので、ほんとに良かったです。もしテーピングをしてもらわなかったら完走できなかったのでは？と思うほど、足がいつもと違っていました。

フルマラソン完走 43歳・男性(兵庫県在住)

石川県は初めてです。予想より寒くないなあと思っていたら、後半の坂道と海からの冷たい風が体に堪えました!温かいお茶がありがたかったです。ふくらはぎをケアしてもらい、なんとか駐車場まで歩いて行けそうです。

フルマラソン完走 28歳・男性(金沢市在住)

3月になってからの雪で練習不足のまま走りましたが、やはり後半失速。目標タイムには届きませんでした。初めてここを走った5年前は雪が降ったので、今年はまだよかったかな。すごく丁寧にケアしてもらったし、完走できたので満足して帰れます。



支部だより

金沢南支部

金沢南支部 研修会&学術講演会 会員の研究発表に耳を傾ける

平成28年11月12日(土)午後7時から、白山市民交流センターにおいて実施しました。

学術講演会

超音波観察から見た筋挫傷の実体 ～生体内アクトミオシン形成の可能性～

発表者／岡本 透会員

挫傷・打撲時には毛細血管などが損傷されます。その際の「阻血」が引き起こす生化学的メカニズムについて考察し、筋硬結・トリガーポイントとアクトミオシンの関係について岡本会員の仮説を交えて説明しました。

なお岡本会員は、本会主催の会員学術研究発表(2月19日)でもこの発表を行いました。



発表を行う岡本透会員。

会場から質問も。



保険講習会

保険取扱いについて

講師／西川 典孝保険部長

保険取扱いの注意点と会員から実際にあった問い合わせ内容について説明が行われました。特に注意を要する事例については西川保険部長からQ&A形式で出題され、会員の理解も深まりました。

加賀支部

加賀支部 保険講習会

保険の最新情報を詳細に

平成28年12月4日(日)、加賀市セミナーハウスあいりすで西川典孝保険部長を講師に保険講習会が行われ、現在の保険の状況について注意と指導がなされました。

まず、施術情報提供紹介書・依頼書について申請書ガイドラインに沿った説明がされた後、社会保障審議会の医療保険部会、柔道整復療養費検討専門委員会での内容が報告されました。

後半は医師との連携を含めた内容をQ&A形式で講義し、会員はメモを取りながら真剣に聞き入っていました。質疑応答では自賠責保険等を含めた多くの質問が出て、大変内容の深い講義となりました。



Q & A方式により会員の理解も一層深まった。

講習会に先立って中田健市加賀支部長が挨拶。



能登支部

能登支部 新年学術研修会 学びと研鑽の一日



選手の状態を見極めながらケアすることが大事と演会員。

列島が寒波に襲われた平成29年1月15日(日)、七尾市の能登食祭市場にて能登支部新年学術研修会が行われ、30名の会員が参加しました。

研修会は山田俊志支部長と堂本義邦副会長の挨拶で始まり、第一部の能登和倉万葉の里マラソンのケア・サポート研修では、濱亮輔会員がストレッチの実演を行いました。その中で演会員は「この大会ではスタート前にもたくさんの選手がブースに来られますが、スタート前にストレッチをやりすぎて筋肉が弛緩すると、



山田支部長(上)と堂本副会長の挨拶で研修会がスタート。



能登和倉万葉の里マラソンを前に30名が参加。

逆に実力を100パーセント発揮できない場合もありますので、よく選手の状態を確認してください」と呼び掛けました。

第二部の保険講習会では、西川典孝保険部長が会員からの質問に丁寧に答えていました。



会員の質問に答える西川保険部長。

能登支部 第2回委員会 ケア活動にも一層の進化を!



能登和倉万葉の里マラソンの最終打ち合わせを行う。

平成29年1月15日(日)、能登支部委員会が能登食祭市場にて開催され、2か月後に迫った「能登和倉万葉の里マラソン」について最終打ち合わせを行いました。

能登支部では毎年「猿鬼歩こう走ろう健康大会」と「能登和倉万葉の里マラソン」、二つの大会でケア・ボランティア活動を行っています。「猿鬼歩こう走ろう健康大会」では13年間に亘りケアを続けており、「能登和倉万葉の里マラ



支部委員の皆さん。

ソン」では2010年の初開催から7大会で延べ3595名のランナーにケアを行いました。これまで事故やトラブルは一件もありませんが、参加するランナーが増えるにつれ、ストレッチやアイシング、テーピングなどケアブースで求められるものが多様化していると感じます。

今後もランナーの皆さんが安心してケアを受けられる安全なブースを目指して、活動を行いたいと思います。

金沢北&南支部

金沢北&南支部合同 保険講習会・新春懇親会 今年も明るく!笑い飛ばして福を呼ぼう!!

平成29年1月22日(日)午後2時30分から、ホテル金沢4階エメラルドを会場に開催されました。

保険講習会

金沢北支部67名・金沢南支部51名の会員が参加。講師の西川典孝保険部長より、柔道整復療養費と医師への紹介状の書き方について詳しい説明がなされました。



西川典孝保険部長の説明に118名の会員が熱心に聞き入った。



新春懇親会

金沢北支部43名・金沢南支部31名の会員が参加しました。

西川典孝金沢南支部長の挨拶の後、嶋谷清会



西顧問のご発声で乾杯！

長、碓井貞成北信越柔整専門学校校長、田中博人本会顧問からお言葉を頂き、西徹夫本会顧問弁護士による乾杯のご発声で開宴。皆さんよほど喉が渇いていたとみえて、冷えたビールを一気に喉に流し込むと乾杯から10分足らずで会は最高潮に。

暗い世相に首を垂れる会員は一人もなく、全員が笑顔で懇親会を楽しんでいました。「俺の頭はなぜ薄いか。それは未来を明るく照らすためだ」と明るく言い放ち笑いを取る会員もいて、まさしく「笑う門には福来る」。新春にふさわしい懇親会となりました。



嶋谷清会長



北信越柔整専門学校
碓井 貞成校長



田中博人本会顧問



じゃんけんゲームで会場もヒートアップ。

Topics -トピックス-

トピックス①

「健康やわら体操Ⅱ」の動画を撮影、ホームページにアップ

「健康やわら体操」は高齢者の体力維持・増進を目的に創られた体操で、厚生労働省の後援を得て講習会を重ねながら普及活動を行ってきました。柔道の形を基本とした緩やかな動作から、老若男女どなたでも手軽に無理なく行えるのが特徴です。それをさらにバージョンアップさせた「健康やわら体操Ⅱ」では心と体を呼吸で結び付ける「波の形・水平の形・ひねり当・納めの呼吸運動」を取り入れて、ロコモーションシンドロームに対応した体操になっています。

平成28年12月18日(日)午後1時から、柔整会館の特設スタジオで「健康やわら体操Ⅱ」の動画撮りを行いました。撮影はIT委員が、解説と実演のモデルは健康やわら体操普及委員6



撮影はIT副委員長の山田俊志会員が担当。

名と、それぞれ役割を分担して収録を開始。はじめはカメラを前に緊張の面持ちでしたがさすがベテラン柔道選手たち、時間



緊張がほぐれて次第に動きもダイナミックに(後列左から河村三紀、北浦健司、丸田克幸、前列左から津田大資、木山隆久、森田淳の各会員)。

とともに解説と動作がかみ合い力量感ある動画となっています。

今回撮影した動画は、(公社)石川県柔道整復師会の公式ホームページからどなたでも閲覧できます。ぜひ健康の一助にご利用ください。



URL <http://jyuusei-ishikawa.jp/>



金沢南支部

平成29年2月17日入会

寺口 智也 (てらぐち ともなり)

生年月日 昭和55年8月15日

出身校 北信越柔整専門学校

住所 野々市市太平寺1丁目2番1号

接骨院名 てらぐち接骨院

電話 076-246-6200

特技・趣味 音楽鑑賞・ダーツ

トピックス②

能登支部でSSI講習会を実施

(公社)石川県柔道整復師会では県内各地で開催されるスポーツイベントでケア・サポート活動を行っていますが、選手の皆さんに施すケアの内容を高いレベルで統一されたものにするため、講習会を随時実施しています。

平成28年10月30日(日)は羽咋市の休暇村能登千里浜で開催され、能登支部を中心に会員43名が参加しました。まず事業部部長・SSI委員長の錦川孝彦理事が「ケアボランティア活動での基本的な活動内容」を講習し、DVDによる「ケアボランティア活動の基本的なストレッチ」を



錦川孝彦SSI委員長

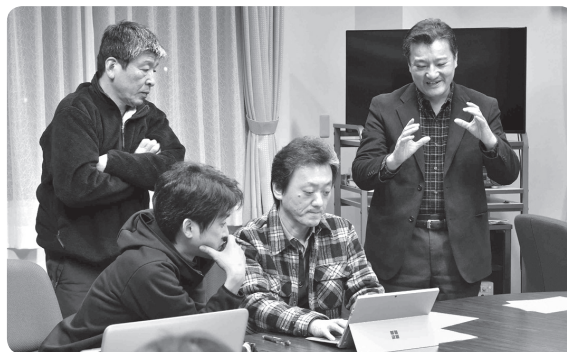
学んだあと、中田健市学術部部長が「ケアボランティア活動の禁止事項について」をテーマに講習を行いました。



中田健市学術部部長

トピックス③

IT講習会を開催



持参したタブレットで課題に取り組む。

平成29年2月23日(木)午後8時30分より、石川県柔整会館会議室において「統一HPの活用法・Facebookの利用法」の内容でIT講習会が開催されました。講師の山田俊志IT副委員長から日整公式Facebookや日整ホームページの解析結果、また第6回日整全国少年柔道形競技会ダイジェスト動画がアップから2日間で8万回以上再生されたという報告があり、短時間で多くの人に情報を伝えられるネットの威力に驚かされました。

その後、参加者それぞれがFacebookのアカウントを作成(登録)したり、個人ページを充実させたり、夜遅くまで課題に取り組みました。本会の公式Facebookは会員にとっても有効な広報ツールです。積極的に活用して頂けるよう、わかりやすい講習会を今後も企画していきます。



ネットの情報発信力に一同「へえっ!!」

❖3月から日整ホームページ、公式フェイスブックで各都道府県の公益活動が紹介されるようになり、全国で開催されるマラソン大会やスポーツ大会、トレーナー活動、一般公開講演会の様子を見ることができます。また日整のホームページでは多彩なインフォメーションがされており、日々の業務や保険に関する内容もあります。ぜひご覧ください。(佐藤)

❖今年度で本会役員を退任することになりました。4期8年間、いろいろと貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございます。役員として失敗、失態ばかりが思い出されますが感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、一会員として本会の何かお役に立てればと思います。

❖いい景色を見ました。ホテルを断られて泊まるどころもなく、幾つもの大きなキャリーバックを押しながら歩くアメリカ帰りの見知らぬ青年に声を掛け、一緒に食事をして自宅に泊めた酔っ払いの親爺二人。おそらく二人にはその青年が、我が子のように映ったのでしょう。(記八馬)

❖広報部員でカラオケをする機会がありました。歌がうまかったり意外な一面が見られて楽しかったのですが、歌うのは70年代のフォークやニューミュージックばかり。当時は「最近の若い者の歌はわからん」と言われたものですが、今では私が、流行の歌を聞いて「どこがいいの?」と言う方になってしまいました。では一句「広報部 今年も進む 高齢化」(中野)

❖旧暦でみると、2017年には6月24日から閏(うるう)五月があります。このような年は、春が早く梅雨が長く、梅雨明けのはっきりしない暑い夏になるそう。そこで、梅が咲いたら外に出るよう心がけ、桜が咲く頃から積極的に体を動かして、長い梅雨、暑い夏に耐えうる体力を養いましょう、(^O^)。以上、ORIさんからの情報でした。(木藤)

❖またやってきた、今年度最後の編集後記。5年、10年と書き続けてきて、もう何回目なのか自分でもよくわからなくなっていました。色んなことが起きて、色んな人に出会って、色んな思いをしてきた。そしてその都度、くたびれた脳細胞を叱咤して刺激を与えて、なんとか原稿をひねり出してこられたことに自分で驚いています。(小松)

❖平成13年4月から16年間携わった広報部ですが、今期を以て退任します。歴代広報部長、部員の皆様、編集室e-コミ 泉谷さんありがとうございました。楽しい思い出ばかりです。立つ鳥跡を濁さず。(橋本)

❖近所にヒノキで編み笠を編む84歳の女性が住んでいます。ヒノキ細工の中でも編み笠は非常に難易度が高く、現在、日本で編むことが出来るのは唯一彼女だけ。小さい頃より親しんでいないと作れないとか。彼女が引退すれば、この世からヒノキの編み笠は姿を消して二度と手に入らなくなってしまうのです。技術も自然と同じですね。(太田)

❖最近気になる言葉がある。それは、「よいしょ」「どっこいしょ」である。さて、外国ではどう言うのだろうか。フランスではオップレー、ドイツはハウルツ、オランダはフツスケアー、ロシアではダヴァイ、韓国はウシャ!ウシャ!など。ちなみに英語にはピッタリ対応する言葉はないそう。なぜ気になるのか?それは、最近、よく使っているからだ。(湯どうふ)

❖最近患者さんと話題になったのが忘れ物のこと。鍵・携帯・(煙草)・傘・靴下・財布・時計・上着を挙げ、覚え易いようアナグラム式に頭文字を取って『欠け(た)角砂糖』という言葉の思い付いた。自画自賛でさっそく貼紙をしておいた。これからは患者さんも注意して忘れないんじゃないかと思った私が、二日後に忘れ物。短慮虚しく散る。(五十嵐)



公益社団法人 石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26

TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196

E-mail ishiju@spacelan.ne.jp



撮影 金沢南支部 木山 隆久会員

使用カメラ:ニコン D90

使用レンズ:AF-S NIKKOR 18mm-300mm

撮影:P(プログラムオート)

[能登島大橋]

1982年開通。七尾市石崎町と能登島(屏風瀬戸)を結ぶ石川県内で最も長い橋で、穏やかな内海に美しい曲線を描く姿は能登島の名所となっています。

能登和倉万葉の里マラソンではスタート直後にこの橋を通過します。5000人ほどの選手が渡りはじめると、全長1050m、高さ24.3m、幅8.4mのプレストレスト・コンクリート製の橋が大きく上下に揺れ、選手たちの高揚感が伝わってくるようです。